



水田 恒一 議員

市民の健康と健診率の向上

問

特定健診の受診率向上のための施策が、どのように実施され効果を上げているか。医療費と未受診者の関係を地域別に明らかにし、受診の呼びかけに用いてはどうか。

答 中村市長

年度当初に40歳以上74歳以下の国民健康保険加入で特定健診対象者全員に健診の日程表と受診券を郵送し、受診案内を行っている。

その後、一定期間を置き、未受診者を



抽出し、小学校区単位ごとに身近な場所での健診日程の案内はがきを郵送し、さらに申し込みのない方には、電話での受診案内を行っている。

平成23年度のはがきと電話によるそれぞれの受診率は把握していないが、合計388名で、7・4%の受診率である。

未受診者に絞った戸別訪問は、現在実施していないが、有効な手段と考えられるため、今後の検討課題としたい。

受診率と医療費の関係については、プログラムの開発が必要となるので、今後、データ活用の有効性等を検証していきたい。

武道必修化による男子のみの柔道着購入

問

男子のみの柔道着購入は本当に必要なのか。女子と同様に市で購入し、貸与できないのか。また必要なくなった柔道着を回収し、貸与してはどうか。高価な用具は市で用意すべきである。

答 春田教育長

一部の中学校を除き、男子生徒には、新学習指導要領以前から柔道を授業に取り入れていた。

これまで柔道着は、生徒が購入し、個人で所有する学校、学校が購入し生徒へ貸与する学校があり、各学校の裁量に任せってきた。この経緯から、新学習指導要領のもとでも、各学校に方針を決めてもらい、要望に基づいて予算措置を行っている。また、柔道の必修は、2年生だけでなく、3年

生では自由選択となり、女子の場合は、ほとんど3年生で柔道を選択しないという実態がある。

なお、柔道着に限らず、高価な学用品等はPTAが主になってバザー等を行っており、保護者同士が譲り合うなどの機会を設けていることから、教育委員会が介入することは、余り適当でないと考え、今後は各学校と協議して、格差や矛盾点を是正したい。

市道稲荷下三谷線の交通量増大による騒音

問

深夜の大型車の通行による振動と騒音により、寝入り端を起こされ、早朝の眠りを妨げられるなど十分な睡眠がとれない。通行の規制を願う地域住民の声に耳を傾け、何らかの通行規制を願う。

答

岡井副市長

9月7日に騒音測定を行った結果、昼間は平均61デシベル、夜間は50デシベルであった。騒音規制法の指定区域外ではあるが、市として住居の用に供される地域の道路に面する基準に当てはめると、基準値以下である。

現在は安全対策や安眠対策として、速度規制40km、特殊車両の通行許可の対策を講じているのが現状である。

伊予警察署との協議では、現時点では大型車の通行制限は計画していないとのことである。

今後は、引き続き違反車両の取り締まり等を警察に要望し、必要に応じて大型車の交通量調査や騒音振動調査を実施し、状況把握に努めたい。

その他の質問事項

・国民健康保険税収納対策の向上